

◆ 第一回柳川市観光まちづくり推進委員会議事録（修正後）

平成23年7月22日作成

- ◇ 日 時：平成23年7月11日(月)15時00分から17時00分まで
- ◇ 場 所：柳川市役所 柳川庁舎 庁議室
- ◇ 欠席者：渡辺観光協会会長

時刻	項目	担当	内容
15:01	●市長挨拶	金子市長	<p>皆様こんにちは。先週梅雨明けということで気温も34度と暑くなっております。雨もたっぷり降って掘割の水もございまして安心しております。皆様におかれましては、大変ご多用の中に委員就任を快くお引き受けいただきありがとうございます。</p> <p>柳川市観光振興計画を策定して早いもので2年が経過しました。計画に掲げる短期計画期間が満了し、数値目標の達成状況や、事業の効果を検証する基礎資料が整いつつあるということで、この委員会を立ち上げた次第でございます。</p> <p>名簿を拝見しますと、観光を専門とされる皆様にお集まりいただいておりますので、色々な角度からご意見を賜れるものと楽しみにしています。</p> <p>東日本大震災や国内経済の低迷、人口減少など、社会情勢が変化する中、旅行の多様化、全国各地の観光による地域づくりが展開されています。</p> <p>一方で、社会が成熟し、観光客のニーズが「十人十色」から「一人十色(ひとりという)」に多様化し、「体験する」「交流する」「学ぶ」旅行に転換する中、柳川はこの対応に追いついていないのではないかと、思っています。</p> <p>これまで、柳川では「うなぎ・川下り・北原白秋・御花」の四つの柱で観光客誘致を進めてきました。今後は、先人から受け継いだ皆さんの地域資源を活かした五つ目、六つ目の柱づくりが必要だと思っています。</p>

			<p>現在、「柳川ブランド推進事業」に取り組み、農業や漁業などと連携した体験プログラムや、農産物や水産物の生産に携わる人たちを中心とした受け入れ態勢づくりを始めています。</p> <p>また、本日、ご出席していただいています九州産業大学商学部長の千教授のご厚意により、「産学民官連携事業」として「サテライト大学」を柳川で開設していただき、若者の視点での観光商品作りや拠点づくりなどを提案していただいています。</p> <p>さらに、来年五月には、「柳川から九州・日本の元気を発信したい」との思いから、「九州市長会」を柳川で開催できるよう誘致しています。</p> <p>いずれにしましても、いかに一人でも多くのお客様に九州に、福岡にお越しいただくかが第一であり、そしてお客様を地域全体で受け入れ、満足していただき、何度も足を運んでいただけるような地域づくりが大切だと考えています。</p> <p>このためには、市民挙げて観光客をおもてなし、歓迎するといった気運を醸成することが第一であり、市民が柳川を好きになり、誇りに思えるような「住んでよし、訪れてよし」のまちづくりを進めることが重要であると考えています。</p> <p>そして、九州、福岡にとって、柳川が果たすべき役割は何なのか、柳川がどういったところで貢献できるのか、を明確にしていきたいと考えています。</p> <p>結びになりますが、「観光まちづくり」の実現に向け、計画が絵にかいた餅にならないよう、次なる行動により効果的な事業が展開できるよう積極的なご意見を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様方の更なるご活躍を心からご祈念申し上げます、挨拶といたします。</p>
15: 03	●委嘱状交付	金子市長	代表で1人の委員に委嘱状交付。
15 : 04	●自己紹介	九州運輸局 観光地域振興 待鳥課長	柳川市出身です。ご協力できることは協力をさせていただきます。

	九州観光推進機構 大江本部長	柳川は九州にとって大事な観光地です。更なる魅力を発信して九州に多くの人を誘致していければと思っています。
	福岡県国際経済観光課 江崎企画幹	合野課長の代理で出席しております。震災後、外国人観光客が落ち込んでいましたが、旅行会社に確認したらかなり戻ってきています。更に進めたいと考えています。
	福岡県中小企業振興課 手嶋係長	吉岡課長の代理で出席しております。吉岡課長は柳川市在住です。 商店街の振興や伝統工芸の振興などを担当しております。幅広い観点でご意見を述べさせていただければと思います。
	福岡観光プロモーション協議会 本田部長	修学旅行の誘致等で柳川市と連携して取り組みを行っています。 観光では、福岡市と柳川市とで点ではなく面で連携を図っていきたいと思っています。
	九州産業大学商学部 千教授	今までも学生が観光マップを作成したり空き店舗を活用してお店を運営したりさせていただいております。こちらも大変お世話になっております。
	柳川市議会 荒巻議員	市議会 24 人の代表で参加をさせていただきます。 立場上、財政的な面の視点も大切に、旅行会社出身の経験も生かしながら委員会に臨んでいければと思います。
	柳川市 刈茅副市長	ブランド推進協議会の会長を仰せつかっております。平成 21 年 7 月に柳川に参りました。 柳川に来て知ったのが水不足が深刻であるということです。 ブランド推進協議会を平成 22 年 2 月に立ち上げて、柳川の資源をPRしたり、柳川の特産品をつくったりと展開しております。
	柳川市 横山部長	ブランド推進協議会の幹事長として参加をさせていただきます。 川下り・うなぎめし・白秋の 3 大ブランドありますが、柳川にまだまだブランド化する資材があるのではないかと取り組んでいます。

	柳川市 野田部長	観光課が建設部の中にございます。大変お世話をおかけしますがよろしくお願いします。
	柳川市観光協会 高橋副会長	会長が欠席しておりますが、協会から2名で参加をさせていただいております。観光課同様観光の窓口として観光協会の立場で協力をさせていただきます。
	柳川市観光活性化協議会 立花会長	会議所としては、多少観光に関しては遠慮しておりましたが、現在は観光の大切さを感じており積極的に取り組んでおります。柳川の歴史文化を活かして柳川らしい観光というものを会議所でも一緒になって取り組んでいきたいと思っております。
	観光振興プロジェクトチーム 目野委員	柳川市観光協会の戦略委員長も仰せつかっております。よろしくお願いします。
	田坂氏の紹介 (古賀課長)	本日は都合が付かず欠席でございますが、事務局のアドバイザーとして、柳川ブランド推進協議会地域づくりアドバイザーの田坂さんをお願いしております。
●事務局 紹介		※自己紹介
●経過と要綱 の説明	木下補佐	柳川市観光まちづくり推進委員会要綱について説明。(資料を読み上げて説明)
●会長・副会長の選出	古賀課長	(事務局提案。) 会長に九州産業大学の千教授にお願いをしたいと考えています。振興計画を策定した際の委員でもございましたし、観光学専門の教授でもあり、産学民官連携事業の中でも直接柳川に関わっていただいている関係上お願いしたいと思っております。副会長を本市の副市長である刈茅副市長にお願いしたいと考えています。皆様いかがでしょうか。 (拍手にて承認) ※市長退場。

15:30	●会長挨拶	千教授	会長に御指名いただきました千でございます。どれだけ重責が果たせるか心配ですが皆様のご協力とご理解をいただきましてこの委員会がスムーズに運営できますようお願いいたします。
	●副会長挨拶	刈茅副市長	副会長に御指名いただきました刈茅でございます。観光振興のために実効性のある効果的な事業を推進していきたいと考えております。
15:32	●議事 (1) 委員会の位置 づけ・役割	山田係長	資料に基づき説明。 1. 位置づけ 観光振興計画の進行管理及びPDCA評価を経て、計画に基づく「観光まちづくり」を実現するための戦略の妥当性を検討する組織です。 ①策定後2年経過し、計画に掲げた数値目標の達成度を分析評価する。 ②短期事業の達成度を振り返る。 ③中期・長期の施策を含め、観光施策の方針を協議する。 ④計画に掲げる施策について、平成24年度から3カ年程度の「選択と集中」を進める。 ⑤計画に掲げる事業を計画的に実施できるように促す。 ⑥情報を共有し、九州・福岡における柳川の位置づけを整理し、柳川が果たすべき役割を明確化する。 2. 取り組む内容 ①平成22年までの短期事業の振り返り、評価。 ②観光振興計画に掲げる施策と事業の評価。 ③平成24年度からの3カ年程度の期間の選択と集中プランを検討。
		千会長	説明いただきましたけれども、計画に直接関わっていない方には難しいかもしれませんが、PDCAのC(チェック)にあたる部分をこの委員会で検討してそれを踏まえ、時代の潮流も含めて観光客の価値観の変化も踏まえてアクションプランの作成に持っていきたい。その説明でしたが、ご意見ございますか。(特になし。)議題2の説明をお願いします。

15:45	(2) 振興計画の概要	津留	資料に基づき説明。 策定するに当たり、柳川観光の現状及び問題点等を整理し、課題の抽出を図り、方針を検討してきました。 計画書策定に当たり、大きなポイントとして「観光まちづくり」の概念を用いております。 観光振興計画は第一次総合計画の分野別計画に位置付けております。 将来像を実現するために基本コンセプトを設定し、7つの戦略を位置付けております。
		千会長	委員会は1回目ですので、委員の皆さんの全体の共通認識を明確にしておく必要があると思います。 委員会の役割を明確する必要があります。
		本田氏	計画書は良い分析をしていると思います。計画書の概要も説明がありました。数値もこれだけの目標を掲げてありますが、戦略的に進めていくということですが、委員会としては、これを基にこれからどうしていくのかを検討していくのか、それともこれを膨らませていくということなのかどちらなのか。
		山田係長	振興計画は10年間の大きな方針であります。 今回は、短期の事業年度が経過しておりまして、振り返りを実際にやり、達成度調査の数字の結果が出て、柳川の強い部分や弱い部分がどこなのかを専門的な見地からご意見をいただき、PDCAの次のAにあたるアクションにつなげていきたいと考えています。 大きな柱については観光振興計画をベースにしていく部分と時代も大きく動いておりますので、柳川としては事業ベースとしてこれを実施した方がよいといったようなご意見をいただければと思います。 本田部長のご意見の両方を議論していただければと思います。
		本田部長	柳川でのしっかりとした部分はありますが、福岡、日本、海外からどうやってお客様を誘致するのか描かれていない。

		<p>今後どのように誘致をしていくのかを具体的に付け加えていく必要があります。</p> <p>受け地としての柳川はしっかりできるかもしれないが情報発信では柳川をどこまで発信していくかが弱い部分だと思います。</p> <p>受け皿はできていると思いますが、古き良き柳川から革新に迫っている過程にあるということは分かりました。しかし、いかにお客様を誘致するのがメインであると思いますので、ここに入れ込む必要があると考えます。</p>
	大江委員	<p>観光プロデューサーの育成ということがありますが、具体的に何か動かれていますか。</p>
	山田係長	<p>昨年度から観光協会にアドバイザーといった形で配置をさせていただいています。</p>
	大江委員	<p>ブランド化というのは難しく、機構としてもがんばっていますが、情報発信ということは如何に書いてもらうかであり、宣伝では難しく、新聞やテレビ雑誌にいかにも良いまちであるかを書いてもらわないといけません。</p> <p>担当者がメディアの方と個人的に顔が浮かぶような関係にならないとだめです。私も6年かかり、やっとメディアの方たちと顔が浮かぶ関係ができました。</p> <p>雑誌社にも訪問をさせていただき、メディアの方々の予算も厳しいので飛行機代やアテンドをしますので九州の事を書いてくださいと営業をしながら記事を書いてもらっています。もちろん新しい情報を流しながらです。</p> <p>記事として1ページいくらかかるかは様々ありますが、それをいくらの宣伝費と換算するかも考え方ですが、昨年は約6千万の経費で5億円の価値を生んでいると思っています。例ですが、日経新聞社と共同でシンポジウムを行っておりまして機構として100万円を支出しておりますが、全国紙に九州の特集記事を書いていただいて2,000万の価値を生んでいます。100万円で2,000万円の価値を生んでいます。考え方だと思います。お金を惜しまないという</p>

			<p>ことも大事ではないかと考えています。</p> <p>鹿児島県の奈良迫プロデューサーや飯塚の伊藤伝衛門邸の担当の方も常に新しい情報を発信して、メディアの方を呼んで記事を書いてもらうということをしてあります。</p> <p>人のつながりを気配りしながら情報発信を意図的にしていくことが大事だと思います。</p> <p>柳川にはたくさんつながりがあると思います。そのようなつながりを一つ一ついかに取り上げて情報発信していくかが重要です。シーズンごとに情報発信はしてありますが、定番ではない新しい情報発信をしていくことでメディアに取り上げていただくことで柳川に行ってみようかなと思うきっかけになると思います。</p> <p>機構にも同じことがあてはまりますが、最近ではJR九州の新幹線の宣伝がカンヌで開かれました広告で金賞を受賞されましたが、一般的にはあまり知られていません。そのようなことをもっと情報を発信していくことが大事だと思っています。</p>
		待鳥委員	<p>計画書にある短期計画が平成22年度で終わって見直しということよろしいでしょうか。(はい。)</p> <p>この委員会では、計画の内容まで踏み込んだ変更を行っていくかのでしょうか。22年度までのチェックを行い、アクションを行うといったイメージでよろしいでしょうか。(はい。)</p>
		立花委員	<p>30年度までに観光客を150万人に達成する目標数値が出ておりますが、それを達成するために7つの戦略を設けていると思います。それをすべて達成できれば150万人どころか200万人以上の観光客が来ると思います。</p> <p>この委員会では7つの戦略の内のどれを皆さんたちで考えてくださいと言っただけであれば具体的に行動しやすいと思いますが、この委員会では考えるだけの委員会ですか、それとも行動に移していく委員会ですか。メンバーの方々になければできないということをはっきりしてもらった方が具体的にやりや</p>

			すいと思います。
		古賀課長	<p>観光振興計画は指針であり、具体的に進めていくということが示されていません。観光のまちをつくることは広い分野でございますので、振興計画に掲げているすべての指針を掘り下げてこの委員会で細かく示していくことは不可能だと思います。</p> <p>2年間が経過し、現在の潮流や社会情勢の変化などを踏まえて、どのようなことをやっていくべきなのかを皆さんのご意見をいただき大事な柱を2本程度位置づけし、2・3年でできる範囲での事業の提案をご助言いただければと考えています。</p> <p>行政だけでは観光まちづくりはできません。市民や団体の方々から協力・理解をいただき、相互連携を図りながら進めていきたいと考えています。</p> <p>地元からも委員に就任いただいておりますので、それぞれの関連する団体等にこの中で示されたことについて、伝えていただき、実現につなげていければと考えています。</p>
		立花委員	この委員会は何年間の予定ですか。
		古賀課長	1年間の予定です。しかし、中期長期の振り返りの評価もありますので、今後も集まっていただく可能性もございます。
		立花委員	<p>7つの戦略は間違いないと思いますが、折角の委員会ですので、その中からまずはこれに取り掛かりましょうといったことを示していただき、会議所も協会も一斉に同じ目標を持って取り組むことが大事だと思います。</p> <p>この委員会で柳川にとっての柱を示していただいた方が具体的に動きやすいと思います。</p>
		刈茅副会長	7つの戦略の柱がございますが、具体的に実際柳川はこの施策が弱いといった現状を具体的な事業を戦略ごとに示したうえでないと協議できないと思います。そうしないとより具体的な事業展開に結びつかないと思います。

	山田係長	<p>スケジュールで説明させていただきますが、2回目の会議の際に7本の戦略の振り返りを提出させていただきます、3回目にお客様の満足度について提出させていただきますように予定しております。</p>
	大江委員	<p>戦略ごとにそれぞれ方針がございますが、具体的に何をしていくのかが分からないので、意見はいいづらい。</p> <p>機構としては、震災後の対応として九州は安全ですといった情報発信をメインにやっています。正確な情報を発信していくことが大事だと思っております。情報発信やイメージアップなど具体的な提示がないと委員の方々も意見が言いづらいのではないのでしょうか。</p>
	本田委員	<p>7月6日～8日まで韓国の商談会に行ってきましたが、安全安心が現地では伝わりません。現地では原子力が爆発したといった情報は早く伝わります。しかし、安全安心は伝わりにくく、一人の人が危ないと言ったら動かないといったことがあります。</p> <p>マスメディアにいかに正確に発信していくかが重要であります。</p>
	大江委員	<p>先日、指宿に中国雑技団が50人ほどできておりました、メディアの方に取材してもらい、雑技団の方々がどのように感じたかを中国に報道していただきました。中国人の目で見た九州を発信していただきました。</p> <p>運輸局でも留学生100人集め、実際旅行をしてもらい発信していただく事業も取り組まれています。</p> <p>相手の視点でいかに情報発信をしていくかが大事であり、どのような事業を具体的にやって行くのがあればと思います。</p>

		<p>本田委員</p>	<p>柳川市と連携し、修学旅行の誘致に岡山・鹿児島プロモーションを行いました。大事なのはいかに誘致していくのかであります。その部分をお互いに情報共有が重要だと思います。</p> <p>数値の目標も22年は入込客数も減少していますが、いかに目標をあげていくのかがあると思います。</p> <p>九州観光推進機構との連携はどのようなことであり、福岡市観光プロモーション協議会との連携はどういうところであるといった各組織との連携を具体的に示していくことも必要だと思います。</p>
		<p>待鳥委員</p>	<p>観光客が右肩上がりは考えられません。右肩上がりを考えると昔見た栄華をみることでしかなく、少なくなればそれなりの観光のあり方があると考えられます。</p> <p>消費額・滞在時間を延ばすことが考えられ、人口も減っていますので、交流人口を増やすこともあります。少ない人口の中でも一日・一時間でも長い時間滞在していただくことも大事であります。</p> <p>柳川にはリピータが多く、九州外からの入込が多いといった柳川ならではの魅力があります。そこをいかに活用して地域づくりと観光を一緒にどのようにつくって行くのが大事であります。日本の人口は増えません。短期的な集客は必要ですが長期的視点も必要です。</p> <p>観光は常に新しい魅力をつくらないといけません。そこにしかない資源を長期的に磨いて活かしていくことと同時に、一時的に入込客数を増やしていく取り組みが必要であると考えています。</p>
		<p>千会長</p>	<p>先程、立花委員がおっしゃったただの議論ではなく、実行できる実践的な議論が欲しいとありましたが、どうやったら滞在時間・観光客が増えるのか消費額が増えるのかを4回でより実践的な議論をまとめていきたいと考えています。</p>
		<p>手嶋委員</p>	<p>委員会とプロジェクトチームとの関係を整理させていただきます。具体的に両者の関係をお願いします。</p>

		津留	<p>振興計画を策定し、策定しただけで終了ではなく、それを実践に移す組織としてプロジェクトチームを立ち上げております。今回の委員にもプロジェクトチームの関係メンバーも就任いただいております。</p> <p>委員会で協議された部分は、プロジェクトチームにも報告をし、その中でご意見等があれば委員会にもご報告をさせていただきます。もちろん、この委員会で協議された戦略計画をすべてプロジェクトチームで実施するのは不可能でございますので、市民の方々や観光協会、会議所などの関係団体と協力をして実施をしていくことになると考えています。</p>
		本田委員	<p>プロジェクトの活動内容については、平成21年度・22年度の実施評価の資料提示はあると思いますが、どうでしょうか。</p>
		千会長	<p>観光客動態の変化や実績はまだ提示されておられませんので、評価ができる状況ではないと思います。実績等の資料は2回目の会議で提示をしていきます。</p> <p>委員会を有効的に持っていきたいと考えています。振興計画を策定し、行動プランまではできていませんが、プロジェクトが動いてある程度成果が上がってきている部分もあれば、全く実行できなかった部分もあります。</p> <p>2年間を振り返るのに必要な資料は2回目の会議に提示していただきますが、委員会としてやっていただきたいことは</p> <ol style="list-style-type: none"> ①これまでやってきた評価をしていただくこと。 ②2年間やってきたことがこのままでいいのか時代の変化もありますので、計画書に示している事業をそのまま実行してよいのかも検討していただくこと。 ③計画の中で優先順位をつけていただいて具体的に実践的にやって行くために詳細なアイデアご提案・アドバイスなどをしていただくこと。です。
16:40	●(3) 平成22年動態	津留	平成22年動態調査報告書に基づき説明。
		千会長	数値目標は達成できるのが一番いいんですが、

	調査結果報告		<p>現状として、右肩上がりには厳しいとのご意見もありました。</p> <p>目標達成できなかったのが日本全国の観光地と比較してどうなのかもあると思いますが、これをどう考えるのかだと思います。取り組みが不十分だったからなのか、旅行する人が相対的に減ったことが原因なのか色々と考え方があります。しかし、目標として掲げておりますので、目標を踏まえて検討をしていく必要があります。</p> <p>観光客数の推計ですが、毎年実施している観光客動態調査に基づき比較しておりますので、調整をさせていただきます。</p>
		千教授	<p>2回目の会議で2年間の実績を提示していただき、どのような取り組みが実施され、どのような成果があったのかを目標数値とセットにして検討していくことになると思います。</p> <p>2回目の会議に各組織の取り組みの説明がありますが、これは、柳川市として今後の優先順位をつける際の参考資料として使わせていただくということでしょうか。(その通りです)</p>
	●(4) スケジュール	山田	<p>資料に基づき資料説明。 ポイントは：平成24年度事業計画に落とし込むことができるスケジュールで進んでいければと考えています。</p>
		荒巻委員	<p>今日の資料は素晴らしい内容であったと思います。これが実際にできれば150万人以上の入込があると思います。振興計画策定の際も委員に就任させていただいておまして、この際に、150万人ではなく200万人を主張しましたが、却下されました。</p> <p>振興計画策定の際、市民の皆さんに観光がいかに大切かということをりかいしてもらうために「もしも柳川に観光がなかったらどうなっていたか？」という話になった時に、ある委員さんがおっしゃったのが「西鉄電車の特急が止まっていなかったかもしれませぬ。」ということでした。柳川市民の方々にもっと観光の大切さを知ってもらうことが重要だと思ってお</p>

			<p>ります。資料の中にも観光は裾野の広い産業だと示してありますが、市民の皆さんは遊びとの認識が多多いと思います。しかし、観光は農業漁業と並ぶ産業だということを市民の方々に知っていただく努力が必要だと思ひます。</p> <p>また、戦略に関してですが、振興計画は市民に対するマニフェストだと思ひておひますので、観光協会、会議所、青年会議所などにも声をかけていき、本当に達成できるようにやひて行くことが必要だと思ひておひます。</p> <p>先程、6千万円の投資で5億円の効果があつたとの話があひましたが、柳川市は290億円の予算に対して観光宣伝費が200万しかござひません。これを1千万や2千万円の効果をだすようにしないといけなひわけです。</p> <p>次回からは事前に配布してひる資料の説明は簡単にして、委員の皆さんの生の声を聞くことが重要だと思ひます。観光の成功例のパクリはだめですが真似は必要だとも考へておひます。</p>
17:00		千会長	<p>2回目の各組織からの報告の時間はどのていどでしょうか。(10分程度でお願いひます。)</p> <p>1回目の会議を閉会させてひいただきます。</p> <p>次回は8月9日です。</p>

※宿題。

配布資料の数値の違いを。